

日本風景街道だより

2009年秋号

シリーズ: 各地域の風景街道の取り組み

越後妻有里山回廊 (北陸風景街道協議会)

1. ルートの概要

ルート圏域は、国道117号、252号、253号等を軸とした道路から見える風景:新潟県南部に位置した十日町市・津南町で構成する越後妻有地域全域です。越後妻有は、2000年から3年に一度「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を開催しています。当地域は里山の豊かな自然な広がり、その中に大地の芸術祭によって制作された数々のアートが点在しており、集落・アート・自然を巡遊する里山回廊を形成しています。



2. 推進組織

パートナーシップの中核には、大地の芸術祭の推進組織である大地の芸術祭実行委員会があります。大地の芸術祭実行委員会は、地元自治体である十日町市や津南町はもちろん、商工会議所や観光協会、旅館組合、温泉組合、各地区の振興会等地域づくりや観光振興に関わる様々な団体によって構成されています。また、大地の芸術祭を支援する地域内外のサポーターによって設立されたNPO法人「越後妻有里山協働機構」もパートナーシップの一員に入っています。道路管理者としては、新潟県十日町地域振興局地域整備部、そして十日町市と津南町それぞれの建設課が名前を連ねています。

3. なぜ地域づくりにアートを用いるか

そもそも大地の芸術祭が始まったのは、新潟県が広域連携と地域活性化を目指して始めた「ニューにいがた里創プラン」という補助事業がきっかけでした。この「ニューにいがた里創プラン」を当時6市町村だった十日町地域広域行政圏で推進するために策定されたのが「越後妻有アートネックレス整備構想」でした。

「越後妻有アートネックレス整備構想」は、4つの事業を計画していました。地域の魅力を言葉と写真のコンテストで掘り起こす「越後妻有8万人のステキ発見」、越後妻有6市町村を花を使ってつなぐ「花の道」、地域の特性を活かしたコミュニティと交流の拠点をつくる「ステージづくり」、そしてアートによる地域づくりの成果を3年に一度発信する「大地の芸術祭」です。



イリヤ&エミリア・カバコフ「棚田」(2000)
supported by Benesse Corporation



新田和成「ホワイトプロジェクト」(2003)

当地域が地域づくりにアートを用いているのは、いくつかのアートが持っている力によります。それは、アートが持つ「場を見せる力」や「場をよみがえらせる力」であったり、「人と人、人と土地をつなげる力」であったりします。

大地の芸術祭の代表的な作品の一つである、イリヤ&エミリア・カバコフの「棚田」(2000)は、耕作者が年齢的な限界などからもう耕作をやめようと思っていた棚田の価値を浮き彫りにし、再び耕作者が農作業に向かう意欲を取り戻すきっかけとなりました。

新田和成の「ホワイトプロジェクト」は、当初20センチ真四角の白い布を8,000枚作成する予定だったのが、作家やサポーターの熱意が地域の人々の心をつなぎ、予定を大幅に超える12,000枚もの白い布が縫われました。

そこにアートが介在することによって、普段何気なく見ていた土地の価値が浮き彫りになったり、人々がつながっていったり、そうした現象が大地の芸術祭の10年近い取り組みの中で、様々な形で現れてきたのです。

4. 沿道の景観や道の持つ様々な機能もアート化

大地の芸術祭では、そうした取り組みの中で沿道の景観や道の様々な機能もアート化してきました。沿道のサイン看板やベンチそのものがアート作品となっているものやポケットパークがアート作品として作られたもの等数々のアート作品がつくれ、沿道の景観をこの地域ならではの個性的なものにしていきました。



リチャード・ディーコン「マウンテン」(2006)



ドミニク・ペロー「バタフライ パビリオン」(2006)



ジョン・クルメリング
(ネキストデザイン: 浅葉克己)
「ステップインプラン」(2003)

5. 風景街道の取組に芸術祭を柱に据えて

こうしたこれまでの取組は、道を舞台にして景観の向上、観光の振興、そして地域活性化を図っていこうとする日本風景街道の目的と非常に合致していると当地域では考えました。また、アーティスト、地域住民、地域外のサポーター、行政といった様々な立場の人たちが関わってアートによる地域づくりが行われる点についても、多様な主体による協働を重視する風景街道の考え方と合うと考えます。

そうしたことから当地域では、大地の芸術祭の取組を柱に据えて、「越後妻有里山回廊」として日本風景街道のルートに登録させてもらいました。

6. 今後に向けて

大地の芸術祭は、第1回(2000年)が162,800人、第2回(2003年)が205,100人、第3回(2006年)が348,997人、そして今年開催された第4回は374,796人と毎回順調にその入込者数を伸ばし、交流人口増加・観光振興の面では、確かな成果を挙げてきました。

今後は、3年に一度の夏の50日間だけではなく、四季を通じて、そして芸術祭が開催されない中間年も含めて、当地域に人々が訪れることを目指していくことになります。

そのためにも、一層魅力のある里山の自然とアートが織りなす雄大な回廊を様々な立場の人たちとの協働によって築き上げていきたいと考えています。

日本最西端の道「ながさきサンセット・オーシャンロード」

(九州風景街道推進会議)

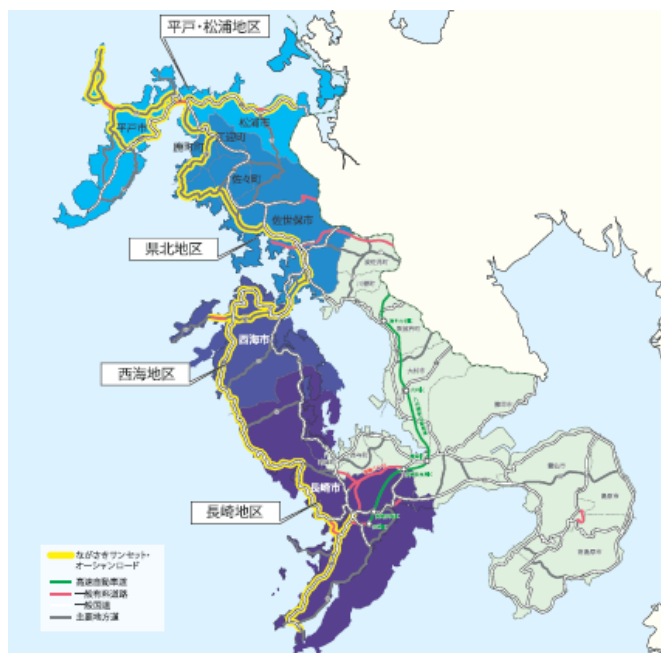
1. ルートの概要

「ながさきサンセット・オーシャンロード」は延長約280 km、日本本土最西端に位置する道で、その多くが海岸線に面しており、夕日が沈んでゆく姿を眺めながらドライブできる美しいルートです。

長崎県は西洋との貿易をいち早く行った地であり、ルート上には教会群や多くのキリスト教関連遺産が残っています。

また、地理的特性から長大橋が多いルートでもあります。

こうした夕日・教会・橋をコンセプトに地域の魅力を高め、訪れた人に地域の魅力を体験し感動してもらえる道づくりを行っています。



<ながさきサンセット・オーシャンロード>



< 夕 日 >



< 教 会 >



< 橋 >

2. 活動内容

市民・NPO 等のボランティア団体、企業、行政など67の団体からなる「ながさきサンセット・オーシャンロード推進協議会」では、「組織」づくり、「人」づくり、「舞台」づくり、「しかけ」づくりの4つの仕組みづくりを基本方針として活動しています。その中のいくつか代表的な取組みをご紹介します。

1) 市民が中心となったまちづくり

地域住民や風景街道パートナーシップ、行政などが集まり、ワークショップにより改善計画づくりを行いました。

改善計画の中で、最も簡単にやれることから実施しようを合言葉に、まずは「道案内システム」を構築することとしました。

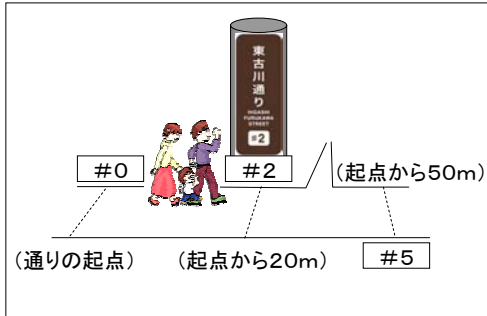


< ワークショップの様子 >

2) 道案内システムの構築

道案内システムとは、通り名とその通りの起点からの距離を示す位置番号により道案内を行う仕組みです。具体的には通り名と位置番号が記載された道案内プレートに道路に設置します。

また、通り名と位置番号が記載されたマップを準備することで、観光客などの土地に不慣れな人でもマップと道路にある道案内プレートにより容易に目的地へ行くことができる仕組みです。



< 道案内システム >



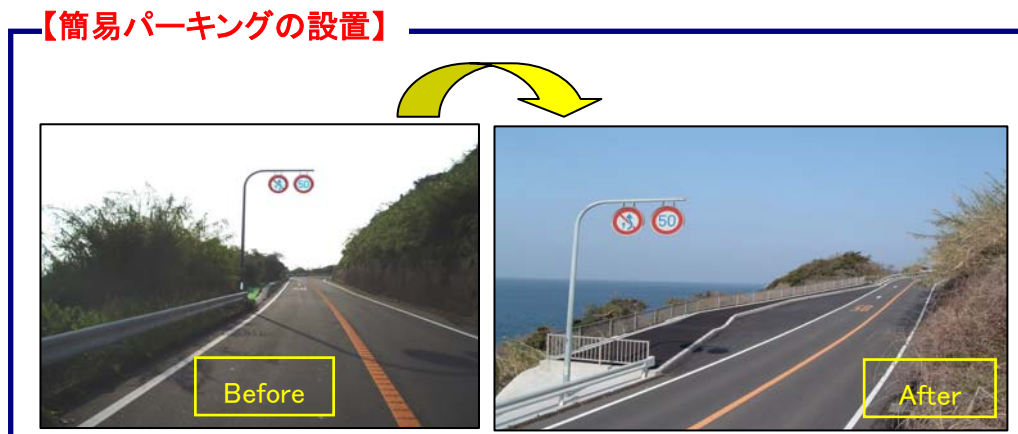
< プレートデザイン検討 >



< 通り名マップ >

3) 美しい景観形成

ながさきサンセット・オーシャンロードでは、沿道に生茂る草木を掃い、防草シートを布設することにより美しい海岸風景を保持する活動や、眺めが良い場所に簡易パーキングをつくるなど美しい景観づくりを行っています。

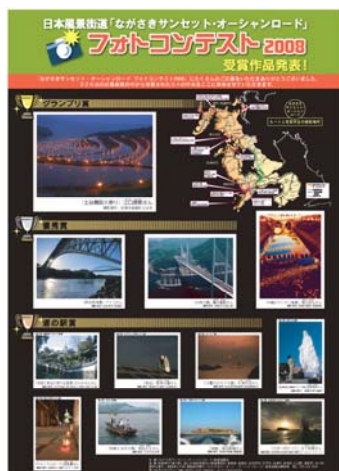


4)美しい景観を情報発信

美しい景観を情報発信していくために、沿道上で撮った写真でコンテストを行う「フォトコンテスト」を実施し、優秀作品などを写真展として展示したり、ポスターにするなど、地域の魅力を情報発信しています。



< 募集ポスター >



< 受賞作品ポスター >



< 最優秀賞作品 >

3. おわりに

ながさきサンセット・オーシャンロード推進協議会は、ボランティアが中心の組織であり、それぞれ出来ることに差はありますが、パートナーシップが各々問題意識を持ち、改善の活動を繰り広げています。

すぐに成果がでるもの、5年・10年の歳月が必要なものなど様々ですが、出来ることから実施しようを合言葉に活動を繰り広げています。

是非一度、ドライブしてみてください。そこには人々の温もりと感動するパノラマがあなたをお待ちしております。

全国で110の風景街道が登録

平成21年7月に中部地方で3ルートが新規登録されました。これにより全国で110の風景街道が登録されました(平成21年9月末現在)。

中部地方の新規登録3ルートは、「南信州パノラマ街道」、「きらり三橋志摩ゆうやけパール街道」、「東海道「駿河2峠6宿風景街道」」です。

なお、登録された各風景街道の概要は、日本風景街道ホームページ(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>)、もしくは各風景街道地方協議会ホームページで閲覧することができます。



風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。

掲示板利用の登録や、日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	五十嵐光徳	011-709-2311(代表) (内線 5357)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	本木 雅信	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	川崎 浩之	048-601-3151(代表) (内線 4253)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	村下 剛	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	廣瀬 昌俊	052-953-8171(代表) (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	竹井 賢二	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	角 秀俊	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	助田 豊治	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	中川 英一	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	崎間 斉	098-866-1914(代表) (内線 4353)

【ご意見お寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局地方道・環境課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>